

基本目標

未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち

▽課題

- 少子化による児童生徒数の減少
- 「大野らしい」子育てと教育の実施
- 新時代に対応した教育のあり方
- 世代間交流などができる、子どもの居場所づくりの充実
- 家庭の教育力の向上
- 気がかりさのある子ども、いじめ・不登校の児童生徒への対応
- 相談体制の充実
- 病気になったときに直ぐに対応
- 安心して遊べる、集う環境
- 子どもに教えるおじいちゃん、おばあちゃん
- 安心して子どもが産める社会
- 子育てへの理解と支援
- 命を大切にする教育
- ユニバーサルな教育
- 若い人の出会いがない(場所、機会)
- 母子家庭支援の充実
- 病児保育の体制充実
- 子育てにおいて自慢できるまちづくり
- 子どもの遊び場がない
- 友達とスポーツして遊べる場所がない

▽考えられる対応策

- 相談体制の充実
- 子育て家庭の定着に向けた支援
- 家庭、地域、学校の連携
- 確かな学力を育み、いじめのない、安心して通える学校づくり
- ICT教育、プログラミング教育等の推進
- 経済的支援
- 文化施設、スポーツ施設
- 多様性理解
- 結婚支援事業
- 地域で育てる
- 地域の方が子どもを見守る体制づくり
- 大野の魅力を知る教育の推進(良さを実感できる)

基本目標

未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち

▽目指す方向性

妊娠前	出会いの場を作る・幸せな家庭のイメージづくり・夫婦で協力できる環境・家事に積極的に協力・気軽に相談できる体制・妊婦検診への支援、市独自の妊活支援の充実
妊娠期	安心な出産・健康な母体・SNSなどによる子育ての情報共有・家庭、地域のつながり・おばあちゃんの知恵
乳児期	愛情たっぷりの子育て・父親の子育ての関わり・乳幼児の預かり・働きながら安心して子育てできる環境
幼児期	安心して遊べる場所・健やかに・故郷大野への誇りと愛着をもつ・自然体験活動に参加・地域ぐるみの活動に参加・自慢できる大野・地域で見守るネットワーク・地域で支える
児童期	
思春期	いじめのない学校・不登校0(ゼロ)に！・文化、教育、スポーツ施設の充実・出会いの場
青年期	経済的支援(奨学金の返済等)・職場の子育てへの理解・地元で働ける場(企業誘致)・勉強できる環境の充実



基本目標

健幸で自分らしく暮らせるまち

▽課題

- 高齢化による医療費や介護費の増大
- 人生100年時代、多死時代の到来による、人手不足、空き家・独居の増大
- 医療機関の不足、減少
- 在宅医療の充実
- 貧困対策
- 障がい者への理解不足
- 権利擁護
- 高齢者のみの世帯の増加
- 高齢者の生活支援
- 高齢者の外出支援不足
- 高齢者の活躍の場の不足

▽考えられる対応策

- 健康寿命の延伸(介護予防)＝地域包括
- 生涯活躍の環境づくり
- 地域共生
- 高齢者の活躍の場の創出
- 成年後見事業
- 食と健康
- 全世代の健康づくりにつながる施策展開(スポーツ)
- ラジオ体操の推進
- ボランティア活動の活発化
- ボランティアの育成
- 参加する楽しみ作り



基本目標

健幸で自分らしく暮らせるまち

▽目指す方向性

- ・支え合うまち、助け合えるまち
- ・健康増進
- ・介護予防
- ・互近助
- ・地域共生社会(みんなで地域のことを考える)
- ・他市町との連携
- ・困った人の支援
- ・地域包括ケアシステム
- ・元気な高齢者
- ・心の幸せ
- ・かかりつけ医を持つ(往診)
- ・楽しみ



基本目標

歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち

▽課題

- 雇用における求人側と若者の希望とのミスマッチ
⇒ミスマッチなのか？相反していないか
⇒雇用における若者の希望とは
- 子育て環境の充実を含む働き方改革
- 観光における消費額の低迷
⇒消費額の低迷というより、滞在時間の短さ、宿泊者の少なさが課題
- 農地や山林の荒廃、鳥獣害対策
- あらゆる分野における担い手不足
- 廃業者の増加
- 地元企業のイメージが低い
- まちなか観光で歩きながら気軽に大野の食を味わうことができる店が少ない
- 観光資源不足
- 城と城下町以外の観光資源の開発
- 消費額増のため、旅館、ホテルの充実

▽考えられる対応策

- 農林業における人材育成、鳥獣害対策、インフラの維持
- 農業系の学校
- 森林環境譲与税の活用
- 企業誘致、働きやすい環境づくり
- あらゆる分野における、若者が働きがいのある環境づくり
- IoTの活用
- 新たな特産品の開発、磨き上げ
- 周遊観光、インバウンド対策、体験型観光
- 統一性のあるまちづくり
- 結ステーションなどでソバを食べられるような簡易な店を出す
- 市街地以外の観光スポットの開発、整備(ex大野古寺巡り)
- エコ・グリーンツーリズムの推進
- 二次交通の充実(福井駅、勝山駅から大野に入ってくる手段が少ない)
- クラウドファンディングの活用

基本目標

歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち

▽目指す方向性

- ・長時間滞在してもらえるまちづくり(農家民宿、食べ歩き、資源みがきあげ など)
- ・道の駅を活用した回遊
- ・農業法人の充実:働く場、受け皿
- ・農林業を学ぶ場を作る
- ・一年を通じた農林業
- ・若者が魅力を感じる働き場の確保
- ・市民と市の情報共有、協働

基本目標

豊かな自然の中で快適に暮らせるまち



▽課題

- 地球温暖化等による大規模災害の発生
- 今の暮らしを後世につなぐ不安
- 公共交通の存続
- 冬期交通の確保
- 幹線道路の早期整備
- 除雪オペレーター不足
- 公共インフラの長寿命化
- 上下水道の持続的な経営
- 危険な空き家が増えている
- 将来にわたる水の安定供給
- 地下水の保全
- 湧水文化の再生
- 良好なふるさと景観の維持
- 森林の保全
- 農地の保全
- 田園風景の保全
- ゴミ排出量の増加
- 高齢者も安心して暮らせる
- 高齢者のごみ出し難民

▽考えられる対応策

- 循環型社会を目指す取組み
- 環境に関する学習の機会の提供
- 持続可能な公共交通の構築
- 中部縦貫自動車道、国道158号の整備促進
- 長寿命化計画に基づくインフラの計画的な整備
- 除雪を担う人材の確保
- 地下水の保全と湧水文化の再生
- 節水の啓発
- 水質保全の意識啓発
- 排水をきれいに
- 治山治水

基本目標

豊かな自然の中で快適に暮らせるまち



▽目指す方向性

- ・生活と自然の共生
- ・豊かな自然環境の継承
- ・安全安心なまち
- ・環境を守る人づくり
- ・公共交通の存続
- ・共助の交通
- ・地域の人の手による保全

基本目標

みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち



▽課題

- 人口減少による担い手不足
- 人や地域の関係性の希薄化
- 住民意識や地域のあり方の変化
- 地域活動、伝承行事を支える意識の低下と担い手確保
- 娯楽の多様化による伝統や文化などへの興味の喪失
- 地域の交流にお金を使っているが、それで終わり。リーダー(若い女性)が必要
- 町内会など団体に入らない。入っても行事に参加しない
- 年金受給年齢が上がり、地区活動を頼みづらくなった
- 役員の負担が大きい
- 大野の良さをアピールし、移住を促進する
- 移住と交流が大切
- 移住者(外から来た人)を増やすことも大切。移住者を支援することも大切
- もうけられるまちづくり(ex道の駅)
- 空き家、空き地の増加

▽考えられる対応策

- 地域づくりのリーダーとなるべき人材の育成
- 地域コミュニティ機能の強化
- 地域における共存機能の再構築
- 地域における世代間の交流
- 地域における地域間の交流
- 地域における防災力・防犯力の向上

基本目標

みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち



▽目指す方向性

- ・ブランド:大野のほこりが必要
- ・若い人、大野の文化を知ることが大切
- ・高齢者が生き生きする生きがい
- ・健康づくり＝人と交わることが大切(exバレーやそば打ちなどの切り口で活動を広げる)
- ・大野の良さを知り、大野への愛着を育む
- ・若い人が参加しやすい方策の検討
- ・コンパクトに転換
- ・本当に必要なものを見極める
- ・地区の人⇒やりたい人 で団体を存続させる。発想の転換
- ・若者から高齢者までつながりづくり
- ・イベントなど市外の人とのつながり
- ・地区を盛り上げる
- ・新たなリーダーの発掘



基本目標

結のまちを持続的に支える自治体経営

▽課題

- 人口減少に対応した行財政のコンパクト化
- 税収の減
- 地方交付税の減
- 市民の理解
- 市民への市政情報の届け方
- 市民の声を吸い上げる方法

▽考えられる対応策

- 行財政改革
- 市民との対話の場づくり
- 先端技術を活用した情報発信
- モデル地区をつくる
- 行政区の中の色々な役のスリム化
- 行政区の見直し



基本目標

結のまちを持続的に支える自治体経営

▽目指す方向性

- ・建物の長寿命化
- ・効率の良い施設運営
- ・空き家等の有効活用
- ・市民との協働
- ・若い人に市政に関心を持ってもらう
- ・地域内での買い物（消費活動）
- ・縦割り行政の見直し